

きらめき



INDEX

- ・[特集] 医療支援部
- ・きらめき医療人
- ・新任医師紹介
- ・お薬の災害対策

いつも笑顔で！

地域と病院をつなぐ

医療支援部には、地域医療連携室、入退院支援室、患者相談室があります。

患者様がスムーズに受診するためのお手伝い、入院される時の御案内、退院される際の調整などを行っています。また、病院を利用される際の様々な困りごとの相談窓口にもなっています。

現在、当院に入院される方の約3割は何らかの支援が必要な患者様です。入院を機に介護サービスが必要になったり、経済的な問題などでお困りの方も多くいらっしゃいます。

医師、看護師、社会福祉士、事務職員などが、協力して皆さん

の支援をさせていただきます。

コロナ禍で、不安定な時代になりました。こんな時こそ「人と人のつながり」が大切だと思います。私達は、ちょっとした相談、支援を通じて、小さなつながりを大切に、住み慣れた地域（住まい）に、速やかに帰ることができるようお手伝いをさせていただきます。



医療支援部長
荒木 隆一



03

入退院支援室 (退院支援)

- 支援内容**
- 医師や看護師、リハビリスタッフなど、院内の多職種で情報を共有
 - 患者様、ご家族とともに相談し、退院後の目標(望む暮らし)を決定
 - 目標の実現に向け、地域の関係機関との連携を図り、つながりを築くお手伝い

スタッフ 退院支援看護師 … 1名
医療支援ソーシャルワーカー … 6名

02

入退院支援室 (入院案内)

- 支援内容**
- 患者様が安心・安全に入院していただけるようなご案内

スタッフ 看護師 … 4名
事務員 … 2名



04

患者相談室・がん相談支援センター

- 支援内容**
- 患者様・家族の疑問や不安等の相談に対応
 - 温もりある患者サポート支援

スタッフ 薬剤師:1名 助産師:1名
看護師:1名
その他兼務者:3名





わたしたち「つなぎ隊」

私達は置かれた立場も環境も異なる方々と関わっています。患者様をはじめ様々な職種の方の考えや想いをくみとり、調整できるよう努めています。我々医療支援部は、院内と地域との『つなぎ』として、つながりをつくる役割だと考えています。

連携窓口の 3ステップ

01

地域医療連携室



- 支援内容**
- 紹介患者様の診察・検査の予約調整
 - 他院への(他院からの)転院調整
 - 他医療機関への逆紹介
 - 広報活動等

スタッフ 看護師 … 2名
事務員 … 4名

望む暮らしを実現するために

～本人を真ん中にチームで伴走～

「病気や障がいがあっても、住み慣れた家で暮らしたい」「退院して、こんな生活をしたい」「人生の最後を自宅で迎えたい」と望まれる方や「家族だけで介護や医療的ケアができるだろうか」「一人暮らしだけど大丈夫?」と不安に思われている方に対し、院内の様々なスタッフが1つの「チーム」として関わり、望む暮らしの実現のために支援・調整を行います。

また、担当ケアマネジャーさんや開業医の先生、患者様の御家族の方々へ確実に『バトン』を渡すことも重要な役割です。

そのために、患者様御本人を真ん中にした支援策について、開業医の先生をはじめとした地域の「チーム」と話し合い(カンファレンス)を行い、患者様にとっての最良について調整を継続していきます。



VOICE

地域からの声

地域をよく知るケアマネジャー

病院スタッフと在宅を支えるスタッフ間の顔の見える関係づくりも支援には欠かせないと思っています。

特に病院より退院し、スムーズに在宅生活へと移行していく上で、退院前カンファレンスは重要だと考えております。長く引くコロナ禍の下では、入院中のご本人に直接お会いできない状況にありますが、病院での様子を動画等で拝見する機会を作っていただき、在宅での生活のイメージが持ちやすく、大変ありがたいです。

住み慣れた地域のクリニック

かかりつけ医は、皆様の健康についても何でも相談できる身近なお医者さんです。定期診療で健康管理を行い、状態に応じて病院の各科専門医と連携を取り合い、皆様が入院や専門的な治療・検査を円滑に行えるように心掛けています。

訪問看護ステーション

私たちは、「その人らしく、最後まで望む暮らしができるよう、本人と家族を支える」ことを目標に、訪問看護を行っています。本人と家族の思いに寄り添い、連携をスピーディかつ密に行い、安心して過ごせるよう「質の高い連携」を心がけています。

患者様自身の意思をより尊重し、様々な専門スタッフとともに協働しながら地域全体で支えています。より安心・安全なご自宅での生活につなげさせていただきます。



入退院支援室

長澤 医療ソーシャルワーカー

「こうあるべき」という固定概念を持たず、それぞれの専門性を活かし、足並みをそろえる事で、患者様が満足する療養のお手伝いができると思います。



看護部

中者 退院調整看護師

在宅での生活状況を想像し、以前とより近い状態で、笑顔で日々を過ごすためには、どの部分に支援すればよいかについて、関係部署と連携を図っています。



地域包括ケア病棟

角野 副看護師長

在宅で療養をご希望される皆様のお役に立てるように、スタッフ一同全力でサポートします。お気軽にお声掛けください。



訪問診療医

林 診療部長
(緩和ケア身体症状担当医師)

患者様が病院での治療から在宅での生活へ安心して移行できるように関係部署のスタッフとともに協力していきます。在宅医療連携の推進を多くの方に知っていただきたいと思います。



地域医療連携室

小林 室長補佐

住み慣れた自宅で安心してお過ごしいただくために、お食事のことや栄養面についてお話しています。お食事のことで気がかりなことがございましたらいつでもご相談ください。



栄養管理室

杉野 管理栄養士

体を治すためのリハビリだけでなく、不安や悩みに寄り添うことを心がけています。持っている力を少しでも引き出し、その人らしい人生を送ることができるよう提案を行っていきます。



リハビリテーション室

湊 作業療法士
武田 作業療法士

安心して治療を受けていただけるように、入院時から退院後をみすえた地域の薬剤師と情報共有を行うことで、治療支援が切れ目なく繋がるようにしています。



薬剤部

新谷 薬剤室室長補佐



先生や看護師さんが心の支えになってくれたので、家族が安心して患者の看病に専念できた。

自宅に帰っても、体調がすぐれない時や不安な時にはケアマネや訪問看護を通じて病院の医師に相談できるので助かった。

退院時に一緒に病院スタッフが付いてきてくれて助かった。

VOICE

退院された患者様
御家族からの声

きらめき医療人

Kirameki Iryojin



Platinum nurse

“プラチナナース”

Platinum nurse

キャリアや豊富な経験を活かして
現役で働いている看護職員たち

長く看護師を続けてきたけど、

今、楽しいです！

―皆さんにとって看護師の仕事の魅力とは何ですか？

患者様との距離が近く、病氣と闘う人に対して寄り添い、援助できることが魅力だと思います。

治療した患者様が元気になって帰る姿を見られることも魅力です。病棟に入院して手術やリハビリなどで辛い思いをされていたことを考えると、退院後に元気な姿を見て本当に良かったと感じます。

また、看護師は学びの多い仕事だと思います。患者様は、お困りの症状やお人柄も様々です。元々「人のために役に立つ仕事」と看護職を選びましたが、多くの患者様と接する中で、逆に自分が学ばせていただくことも多々あると思っています。医療の世界は日進月歩なので、この仕事をしている間は常に勉強が必要です。医療従事者として地域の医療に貢献でき、自分も看護という仕事を通して「医療」を学ぶことができるのも一つの魅力

だと考えています。

―日々のお仕事の中で心がけていることは何ですか？

人の話を聴くことだと思います。これは簡単に聞こえるかもしれませんが、これが簡単に聞こえるかもしれないんですが、「看護師って患者さんに何か応えてあげようと思うから、話を聴いているようで何をしてあげようかと考えていたりする。素直に話を聴けているかと言えば聴けていないんだよ」と当時の先輩看護師に言われたことがあります。

患者様のために思い勝手に答えを出してしまおうとするのですが、まずはしっかりと顔を見てその人の立場になって話を聴くこと、また話しかけやすい雰囲気作りも欠かせないと思っています。

さらに、患者様だけでなく一緒に生活する家族のことも気にかけて、患者様の生活に寄りそって声をかけることも心がけています。

―これまで大変だったことや、つらかったことはありますか？

子育てをしながら病棟勤務をしていた時に、「子どもが熱を出したのでお休みさせてほしい」と上司に相談したら、「子どもの熱ぐらいで休まれたら困ります」と言われた経験がありました。今は産前産後休暇や育児休業等の制度があり、育児に関する理解が進んでいます。当時は仕事（特に夜勤明け）と家事の両立が本当に大変でした。

また、業務中のミスや、職場からの呼び出しに対し、自宅にいても不安を感じていた時期もありました。友達からは退職した方が幸せじゃないかと言われたこともありましたが、やはりこの仕事にやりがいがあったから現在まで続けられていると思います。

これまでの人生の中で、自分が「看護を受ける」立場になったり、家族を介護したりすることとなった際に、看護師の知識・経験が役に立つこともありました。また、仕事を続けることで自己肯定感を下げず前向きに生活することができており、今振り返れば仕事に生かされていると思います。

information

新任医師紹介

道倉 瑛里奈

(みちくらえりな)



専門分野

産婦人科一般

所属学会・資格

日本産科婦人科学会

今は電子カルテの記録や書類作成など事務的な業務も増えています。が、「療養上の世話」という看護業務は非常に重要です。患者様が気持ちよく療養できるよう、専門知識も重要ですが、これからの看護師には色々なスキルを磨いてほしいです。

病院は誰もが長く続けられるような職場環境であるべきだと思います。様々な働き方を受け入れつつ、多職種が支えあっているとよいと思います。

長く看護師を続けてきたけど、今、楽しいです！

災害時の緊急事態！

「飲んでいる薬がわからない!?」

お薬の災害対策

大規模な地震や豪雨等の災害が発生すると、自宅からお薬を持ち出せなかったり、水に流されてしまったり、いつも通りの量や頻度でお薬が服用できないことがあります。

心臓の薬や吸入薬、インスリン等いつものお薬が使用できないと、症状が悪化し命に関わるような事態にもなりかねません。東日本大震災でも、いまままで使用していたお薬がなかったため体調を崩され、亡くなった方もいらっしゃいます。また、病院にある個人のお薬のデータも、災害で使用できなくなる可能性があります。避難時は、最低3日分のお薬を持つ

ていきましょう。できれば7日分あると、より安心です。また、お薬手帳も非常に重要です。実際には、お薬手帳で種類や使用期間、それにかかるお身体への影響を把握できる方には、早急にお薬をお渡しすることができました。しかし、「心臓の赤い薬を朝1錠飲んでいく」という曖昧な情報しかない方には、すぐにお渡しできず、重要なお薬を飲むことができない方もいらっしゃいました。

このように災害時には、お薬手帳を持っていることで、スムーズにお薬をお渡しすることができた事例が多くあります。今まで患った病気やアレルギー



ギーなどもきちんと記載し、いつも持ち歩くようにしましょう。

災害時に、ご自身のお薬とそれに関する情報を把握していないことに対するリスクはとても大きいです。日頃からお薬とお薬手帳をしっかり管理しておいてください。



編集 後記

福井県の新型コロナウイルスワクチン接種率は7割を超え、新型コロナウイルスの第5波も落ち着いてきました。しかし、これからの季節はインフルエンザの流行や新型コロナウイルス第6波などが懸念され、まだまだ油断できません。手洗いやマスク着用など引き続き感染対策に取り組んでいきましょう。

さらめき 市立敦賀病院 広報誌

発行：市立敦賀病院 / 企画・編集：市立敦賀病院広報委員会
©2021 市立敦賀病院
本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為はご遠慮ください。



市立敦賀病院
公式ホームページ
<http://tsuruga-hp.jp>